

令和5年度 シラバス

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2	履修学年	1 学年	学科・コース	普通科・理数科
教科書	実教出版	Agenda	家庭基礎	副教材等	2022 生活学N a v i			担当者	笠井 佳代子・金澤 久子
1. 科目の目標			2. 学習の目標						
<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図ると共にそれらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>			<p>生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。</p>						
3. 学習内容と進め方			<p>科学技術の進展、情報化、国際化、少子高齢化など急速に変化する現代社会の中で、男女が協力し人間らしく豊かで健康的な生活を送るためにはどうすればよいのか、家庭科はそんな疑問の数々を家庭生活という最も身近な中から科学的思考に基づいて解決していく知識と技能を学ぶ教科です。異なる人々との共生、環境と人間との共存、次世代へつなげる持続可能な社会の形成者として、多角的な視点と融合的なアプローチで課題を解き明かし自己実現へ向かってアクションを起こしていきましょう。</p> <p>また、家庭科では自らの「手」でものを作り出す体験を重視します。手作りの体験はあなたを大きな達成感へと導くでしょう。と同時に、体で覚えた経験は即戦力として必ず役に立つ日が来ます。授業は座学・実験・実習いずれもチームワークを意識しコミュニケーション能力の向上を図ります。自立を意識して、家庭科を大いに楽しみましょう。</p>						
4. 評価の観点と函中コンピテンシー									
函中 コンピテンシー	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。			生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。			さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し実践しようとしている。		
	傾聴力	○				○			
	思考力	○			○				
	協働力				○			○	
先見力				○					

学期	月	学習内容	時数	学習活動	ねらい	知	思	主	評価基準	評価方法
前	4	生活設計	1	ガイダンス 人生100年時代をデザイン	・自分に関わるエピソードを書き出していくなかで、自分の好きなことや大切にしたいことなど、自分が将来の生活を考える上でのヒントとなるキーワードに気づかせる		○	○	・自らのこれまでの生き方を探ったうえで、主体的な生活設計の検討ができる	プリント
		1章 自分・家族 -多様化した 社会に生きる-	6	・自分の自立度を考える ・一人で暮らすために必要な生活スキルについて考える ・家族構成の変化とその背景についてまとめる ・他者とよりよい関係を気づくための方法を考える ・家族法の基礎的な知識や近年の動向を確認する ・仕事や働き方に関する制度や法律などを確認する	・青年期の課題を理解し、自立に向けての目的意識を持つ ・今後の人生に向けて自立のためには生活のスキルが必要であり、支え合いや社会の支援の中で成り立つことを理解する。 ・家族構成の変化とその背景について理解する ・家族に関する法律を理解し、多様な家族のあり方について広い視野を養う。	○	○	○	・社会の多様化を把握するとともに、自己を客観的に見る視点を養う・差別のない社会をつくる方法を考え、行動できる・自立のために必要な生活スキルUPにむけてライフステージをイメージすることで、経済的自立人生設計をし目標を立て実践できる。	プリント グループ活動 レポート
	5	6章 衣生活 -選んで着る-	14	1枚の布からユニバーサル デザインエプロン製作	「1枚の布から感じる・考える」 ①ミシンの基礎・デザイン決定 ②製図・裁断 ③縫製 ④仕上げ ⑤エプロン完成 (自己評価) ・繊維から衣服になるまでの成り立ちを理解する	○	○	○	・快適な衣生活を営むための被服材料について理解できる。また、世界の歴史をふまえて衣服がどのような構造でつくられ、着せし、サステイナブルでエシカルな衣生活を意識して個性的な表現ができる。	プリント エプロン製作 グループ活動 時間に余裕ある者は、小物製作 プリント
	6			※日本の着物着付け講座 存会による講師派遣						
	7									
	8			・布・繊維を知る		○	○			

学期	月	学習内容	時数	学習活動	ねらい	知	思	主	評価基準	評価方法	
期	9		1	・安心して衣服を着るために新しい洗濯絵表示	・衣服の管理について基礎的・基本的な知識を身に着ける。				・だれもが快適な衣生活を営めるために表現できる。	プリント	
	10	5章 食生活 - 楽しく安全に食べる -	17	・食事を作る 第1回実習  第2回実習 食事のマナー①  第3回実習 食事のマナー②	調理実習の心得 世界の食文化を知る 包丁の使い方  和食 「和食のマナー」DVD視聴  洋食 「洋食のマナー」DVD視聴	○ ○	○ ○	○ ○	・食事の意義とその役割を理解し、現代の食生活の課題について関心を持ち、さまざまな観点から日ごろの食生活を振り返ることで課題を見つけることができる ・健康な食生活を営むために必要な栄養、食品などの基礎的・基本的な知識と技術を身につけ実践できる。 ・栄養や食品についての知識を元に健康を考えた献立を作成し、調理についての基本的な技術や食品の特性をいかした調理法について理解し、実践できる ・健康を意識し食生活を営むことができる	プリント 調理実習レポート 調理実習レポート 調理実習レポート	
	11					○	○	○			
	12			・身近な食品に含まれる栄養素とその働きについて調べる。  ・食品の表示に書かれていることを挙げる。  ・食品の添加物を調べる。	・栄養素の働きについて理解する。  ・食品の様々な表示内容を理解し、食品選択を主体的に選ぶ目を養う。 ・食品の安全性について理解し、問題意識を持つ。	○	○	○		プリント	
	1										
	2	8章 消費・環境 -消費社会を生きる-	4	・支払い方法のメリット・デメリットをあげ、比較する ・多重債務に陥らないために必要なことを考える ・日常生活の中で、消費者被害の防止のために気をつけることを考える	・様々な支払方法のメリット・デメリットをあげ、比較する ・多重債務に陥らないために必要なことを考える ・日常生活の中で、消費者被害の防止のためにどんな法律があるか調べ、賢い消費者となる	○	○	○	・合理的な意思決定について考え、契約に対する慎重な姿勢を養い、消費者信用の重要性を理解し、将来の行動につなげることができる	プリント	
	3	7章 住生活 -人間らしく住む-	4	・一人暮らしを始めるとき自分の中の優先順位について理由とともにまとめる。  ・自分の理想の間取りを考える。	・住まいとその役割について理解し、将来の快適な選択につなげられるようにする。 ・一人暮らしのイメージができるようにする。 ・間取りについて理解し、自分の理想の間取りを考えることができるようにする。	○	○	○	・暮らしにあった住まいの種類や間取り、健康で安全・快適な住環境についての基礎的・基本的な知識を身につけている	プリント グループ活動	
				1	後期考査		○	○	○		
			3章 高齢者-高齢者と生きる- 4章 社会福祉 -支えあい共に生きる-	2	・高齢者を知る ・高齢社会の現状と課題 ・高齢者を支える制度と仕組み	・高齢社会の現状と課題について理解する。 ・高齢者を支える制度と仕組みについて理解する。	○	○	○	・高齢者を支える制度としくみについて理解し、地域共生社会について調べ、地域で行うことができることについて具体的に考えることができる	プリント グループ活動
			2章 子ども -子どもと生きる-	4	子どもと生きる 「素晴らしき生命誕生」 DVD視聴  ・子どもの心と体の発達の特徴についてまとめる  ・子どもと遊びを体験する	・「命」の大切さを再認識し、子どもの特徴や感性に気づく ・自分の子供の頃の遊びについて振り返る ・子どもが安心して様々な遊びを楽しむためにはどのような環境が望ましいかまとめる ・子どもの育ちを支えるためにできることを考える ・子どもの生活の中心である遊びを理解する	○	○	○ ○	・子どもや子育てに関心をもち、子どもを取り巻く地域の人間として、あるいは将来の親として、子どもが健康やかに成長するためにはどうしたらいいのかを、意欲的に考えることができる。	プリント グループ活動  製作物
			計	54							

\*新型コロナウイルスへの対応によりやむを得ず実験・実習の変更あり。